

科学はすべてについて良い説明ではありません-「自由は進化する」のレビュー (Freedom Evolves) by Daniel Dennett(2003) (レビュー改訂 2019)

Michael Starks

抽象

「人々は、哲学は本当に進歩していない、私たちはまだギリシャ人と同じ哲学的問題に占領されていると何度も何度も言います。しかし、これを言う人々は、なぜそうでなければならないのか理解していません。それは、私たちの言語が変わらず、同じ質問をするように誘惑し続けているからです。食べたり飲んだりするのと同じように機能しているかのように見える動詞が続いている限り、 私たちがまだ形容詞を持っている限り、時間の川、空間の広がりなどについて話し続ける限り、人々は同じ不可解な困難につまずき続け、説明が晴れることができないものを見つめています。さらに、人々が「人間の理解の限界」を見ることができると考える限り、彼らはもちろんこれらを超えて見ることができないと信じているので、これは超越への憧れを満たしています。

この引用は、約70年前に哲学を再定義したルートヴィヒ・ヴィトゲンシュタインからのものです(しかし、ほとんどの人はまだこれを見つけていません)。デネットは、彼が約40年間哲学者であったが、そのうちの一つです。また、彼と彼の主要なアンタゴニスト、ジョン・サールの両方が有名なヴィトゲンシュタインニアン(ジョン・オースティンとサール、ギルバート・ライルとデネット)の下で学んだが、サールは多かれ少なかれポイントを得て、デネットはしなかった(しかし、それはサールやライル・ヴィトゲンシュタインニアンと呼ぶものを伸ばしているが)。デネットは難しい決定論者であり(裏口で現実をこっそり見ようとしますが)、おそらくこれは有名な本「心の概念」(1949年)が転載され続けているライルによるものです。その本は幽霊を追い出すのに大いに役立ったが、機械を置き去りにした。

デネットは、ヴィトゲンシュタイン、ライル(およびそれ以来)が詳細に暴露したミスを作ることを楽しんでます。私たちの言葉の意識、選択、自由、意図、粒子、思考、決定、波、原因、起こった出来事(そして無限に)の使用はめったに混乱の原因ではありませんが、通常の生活を離れて哲学に入るとすぐに(そして言語が進化した環境から切り離された議論、すなわち言葉が意味を持っていた正確な文脈)カオスが支配します。ほとんどの場合と同様に、デネットは一貫した枠組みを欠いており、サールは合理性の論理的構造と呼ばれています。私はこのレビューを書いて以来、私はこれにかなり拡大しており、私の最近の記事は、ステロイドのScientism (説明としての科学の不適切な使用)を呼び出すかもしれない哲学へのデネットのアプローチの何が間違っているかを詳細に示しています。ヴィトゲンシュタインからの別の引用で終わらせましょう - '野心は思考の死です。

現代の2つのシス・エムスの見解から人間の行動のための包括的な最新の枠組みを望む人は、私の著書「ルートヴィヒ・ヴィトゲンシュタインとジョン・サールの第2回(2019)における哲学、心理学、ミンと言語の論理的構造」を参照することができます。私の著作の多くにご興味がある人は、運命の惑星における「話す猿--哲学、心理学、科学、宗教、政治—記事とレビュー2006-2019 第3回(2019)」と21世紀4日(2019年)の自殺ユートピア妄想st Century 4th ed (2019)などを見ることができます。

「人々は、哲学は本当に進歩していない、私たちはまだギリシャ人と同じ哲学的問題に占領されていると何度も何度も言います。しかし、これを言う人々は、なぜそうでなければならないのか理解していません。それは、私たちの言語が変わらず、同じ質問をするように誘惑し続けているからです。「食べる」と「飲む」と同じように機能しているかのように見える動詞'to'が続いている限り、 私たちがまだ形容詞を持っている限り、時間の川、空間の広がりなどについて話し続ける限り、人々は同じ不可解な困難につまずき続け、説明がクリアできないものを見つめています。を。さらに、人々が「人間の理解の限界」を見ることができると考える限り、彼らはもちろん、彼らがこれらを超えて見ることができると信じているので、これは超越への憧れを満たしています。

「哲学は言語によって私たちの知性の妖艶との戦いです。

「野心は思考の死」

哲学者は常に科学の方法を目の前で見ており、科学のように質問をして答え、たまたま誘惑されています。この傾向は形而上学の本当の源であり、哲学者を完全な闇に導く」(BBB p18)。

「精神過程や状態、行動主義に関する哲学的問題は、どのように起こるのでしょうか。-最初のステップは、完全に通知をエスケープするものです。私たちは、プロセスや状態について話し、その性質を未定のままにします。いつか私たちは彼らについてもっと知るだろうと思う。しかし、それは問題を見る特定の方法に私たちをコミットするものです。プロセスをよりよく知ることを学ぶことの意味の明確な概念があります。(コンジュリグトリックの決定的な動きがなされ、それは私たちが非常に無実だと思ったまさにそのものでした)。-そして今、私たちの考えを理解させるといえるならばは落ちる。だから、我々はまだ未踏の媒体でまだ理解されていないプロセスを否定する必要があります。そして今、私たちは精神的なプロセスを否定したかのように見えます。そして、当然のことながら、私たちはそれらを否定したくありません。 WPI p308

これらの引用は、約70年前に哲学を再定義したルートヴィヒ・ヴィトゲンシュタインのもので(しかし、ほとんどの人はまだこれを見つけていません)。デネットは、彼が約40年間哲学者であったが、彼らの一つです。また、彼と彼の主要なアンタゴニスト、ジョン・サールの両方が有名なヴィトゲンシュタインアン(ジョン・オースティンとサール、ギルバート・ライルとデネット)の下で勉強したが、サールは少なくとも部分的にポイントを得て、デネットはしなかったのも興味深い。デネットは難しい決定論者であり(裏口で現実をこっそり見ようとしますが)、おそらくこれは有名な本「心の概念」(1949年)が転載され続けているライルによるものです。その本は幽霊を追い出す素晴らしい仕事をしたが、それは機械を去った。デネットは、ヴィトゲンシュタイン、ライル(およびそれ以来)が詳細に暴露したミスを作ることを楽しんでいました。偶然、この本の直前に、デネットが1981年にダグラス・ホフスタッターと共著した『マインド・アイ』を読んでいました。彼らはいくつかの悪い間違いを犯し(私のレビューを参照してください)、そして最も悲しいことに、彼らは混乱から抜け出す2つの有名な記事を転載しました--ナーゲルの「コウモリになるのはどんなものか」と、コンピュータが考えていない理由を説明するジョン・サールのチャイニーズルームの議論の初期バージョン。

ナーゲルは、コウモリの心の概念がどのようなものであるかを認識する方法さえ知らないと指摘しました。Searleは同様に、思考を概念化する方法と、コンピュータが行うこととどのように異なるかを説明しました(例えば、中国語を理解せずに翻訳することができます)。同様に、多くの哲学および科学的概念に対して、良い対悪い、または単に理解できるものを認識するための明確なテストが欠けています。私たちの言葉の意識、選択、自由、意図、粒子、思考、決定、波、原因、起こった出来事(など)の使用は、めったに混乱の原因ではありませんが、通常の生活を離れて哲学に入るとすぐに(そして言語が進化した環境から切り離された議論、すなわち言葉が意味を持っていた正確な文脈)カオスが支配します。ヴィトゲンシュタインは、その理由を最初に理解し、これを回避する方法を指摘しました。残念ながら、彼は全盛期に亡くなり、彼の作品は心(言語)の仕組みの一連の例でほぼ完全に構成されており、彼は人気のある本を書いたことがないので、彼の作品の理解はごく少数に制限されています。

サールは世界有数の哲学者の一人であり、非常に明確で高く評価されている多くの記事や本を書いており、そのうちのいくつかはデネットのworkの欠陥を明らかにしていないと指摘しています。彼のレビュー'意識エクスは、デネットの1991年の本'意識エクスプラ'と彼の本'コンシャウの謎'のアウェイで、非常によく知られています。そして、哲学的な書き方にとって驚くほど明確な方法で、なぜデネット(このトピックについて書いた何百人もの哲学者や科学者)が難しい問題、すなわち意識をどのように概念化するのかを説明することに近づいてくっていないのかを示す。もちろん、私の見解(そしてヴィトゲンシュタインの)では、言語の使用に関する混乱に関する「難しい問題」はありません。多くの人は、私たちが本当に重要なことを「概念化」することは決してできないと疑っています(しかし、Wは非常に難しい科学的問題と言葉の使い方の非常に単純な問題を混同していることを明らかにしたと思います)が、科学的な問題として今どこにも近づいていないことは明らかです。私自身の見解は、進化と発達によって一度に数nユーロ分の「意識」がまとめられているのを見ることができるので、科学的な問題は簡単であるということです。進化により、同時にいくつかのニューロンを同時に。そして、「コンセプト」は他の言語ゲームであり、私たちが単語をどのように使うかについて明確に(明確なCOSを指定する)必要があります。

デネットはほとんど彼の批評家を無視しているが、激しい個人的な攻撃でサールを支持している。サールは、現代哲学が狭い学術感覚で認知心理学(高次思考の記述心理学)の一種であるため、デネットや他の人々から非常に面白い認知心理学を破壊するために外出していると非難されており、サールは30年間、私たちが意識的で思考的な生物学的機械の良い例であることを非常に明確にしています。彼はちょうど私たちがこれがどのように起こるか分からないと指摘しています。サールは「知的病理」、デネットの見解、そして彼らが説明するために着手した現象の存在を否定するすべての人々として特徴付けます。

デネットはここで彼の過ちを繰り返し、彼の批評家への彼の答えを本の究極のページに残します。当然のことながら、本全体にヴィトゲンシュタインやサールへの言及は1つはありません。しかし、彼と同じくらい混乱している他

の古い学校の哲学者への多くの言及があります。科学の本当の経験的問題と、言語がどのように使われるか(言語ゲーム)哲学の問題を混同するという、ほとんど普遍的な間違いというサイエンティズムは大きい。

ほとんどの人と同様に、彼が考えている非常に推論エンジンで彼の心を横切るとは、彼が特定の結論に達することを余儀なくされ、これらしばしば世界の物事の方法について非常に結びついていないか、間違っています。彼らは何十万年も前に生存に役立った行動を組織する上で様々なタスクを行う進化的好奇心のごちゃごちゃです。ウィトゲンシュタインは認知心理学の思考実験のパイオニアであり、30年代にこれらのエンジンの性質と言語の機微を解明し始め、このレビューが始まるコメントをしました。

デネットは、彼の見解は互換性、すなわち、自由意志(私は一貫性のために、我々は選択と同一視できることを望む)が決定論と互換性があると言います(すなわち、物理的に可能な未来¹-p25)。彼は、決定論が必然性と同じではないことを示したいと考えています。

しかし、本全体は煙と鏡であり、通常はそれを理解している意味で消え、私たちは選択できない「選択」を残しています。当然のことながら、これは彼の以前の本「意識が説明された」の中で意識の運命を反映しています。

単一のニューロンがどのように機能するか(または原子がどのように機能するか)の基本を理解できるかもしれない時期に、誰もが脳全体を理解し、その最も複雑な現象を説明するために飛躍することができると思うべきであるということは驚くべきことです。オープニング引用からウィトゲンシュタインの最後の文を思い出してください:"そして、それ以上に、これは超越への憧れを満たしています。 私たちが非常に、非常に慎重であれば、我々は言語ゲームをレイアウトすることができます(例えば、言葉の意識、選択、現実、心などを使用して、様々なステートメントの満足の条件を指定、choice, reality, mindします。)と明快さが可能になりますが、デネットは風に注意を投げ、私たちはクイックサンドに引きずり込まれます。

ここには少なくとも3つの異なるトピック(私たちの脳の進化、選択と道徳)があり、デネットは原子の決定論的なクラッシュから自由がどのように進化するかの一貫した説明にそれらを一貫したアカウントに結びつけようと無駄にしようとします。しかし、跳ね返る原子(または彼のお気に入りの例、コンピュータ上で実行されている人生のゲーム)が現実と同型であることを受け入れる説得力のある理由はありません。彼が文脈を正確に指定しない限り、彼は(満足の条件—すなわち、声明を真または偽にするもの)、彼の声明は意味を欠いている。彼は、量子不確定性(または不確実性原理)が決定論の大きな障害であることを知っていますが、定義されていますが(そして自由への脱出として多くの人に取られました)、そのような出来事があまりにもまれで気にすることはあまりにもまれであるという事実のためにそれを却下します。さらに、そのような出来事が今、あるいは私たちの脳の中で私たちの生涯で起こる可能性は低いので、私たちは決定された脳に固執しているように見えます(つまり、彼は決してCOSを指定しません)。しかし、宇宙は大きな場所であり、長い時間(おそらく「永遠」)の周りにあり、そのような量子効果が1つでも起こった場合、宇宙全体を不確定な状態に投げ込むように見えます。「ある瞬間に、物理的に可能な未来は、ある瞬間に量子不確定性が起こり得るならば、正確には真実ではないという考えは、この場合、無限に多くの可能な未来があるように見える。しかし、繰り返しますが、この声明のCOSは正確には何ですか?これは、物理学の矛盾からの脱出の1つを思い出します、各瞬間に私たちの宇宙は無限に多くの宇宙に分岐しています。

彼は、量子不確定性が私たちに選択肢を持つことができる方法に対する答えを与えてくれるという考えを正しく拒絶します。この明白な考え方は多くの人に提案されていますが、問題は、物理学の方程式から始まり、意識の現象(または他の出現現象)で終わるステップの正確なシーケンスを指定する方法を誰も知らないということです。もしそうなら、彼らは間違いなく少なくとも1つのノーベル賞を受賞するでしょう、彼らは意識を「説明した」だけでなく、ウィトゲンシュタインが主張したように「説明」した(またははるかに良い)出現の普遍的な現象(より低いものからどのように高次の特性が出現するか)を持つことになります。したがって、彼らは「簡単な」問題を解決する必要があります(いくつかの精神状態に対応する脳の正確な状態を決定し、好ましくは時間を無視する不確実性の上に脳内のすべての原子の正確な位置を指定する)と'hard'1(正確に相関するか、意識や選択などを生成するものなど)。そして、彼らはそれにいる間、脳のための量子場方程式に対する正確かつ完全な解決策を不可能にする方法もどうですか?これらの方程式は、1つの原子や真空であっても、無限のコンピュータ時間を必要とするため、計算できないことは非常によく知られています。しかし、無限は1つの原子のために行うので、多分脳はもはやかからなくなりません。電子、中性子、陽子から原子がどのように「出現」するか、分子から原子や細胞から分子がどのように出現するかを誰も明らかにできないのは、彼の心を横切るとはありません(はい、いくつかの方程式がありますが、注意深く見ると、手を振ったり、事実が「物事のあり方」として受け入れられているので、意識、色、選択、細胞の束から出てくる痛みとは明らかに同じだと思います。もちろん、ウィトゲンシュタインの後、科学的な質問と混ざり合うことが哲学的なものであり、すなわち、言葉の異なる用途(意味、COS)が明確に保たれていないので、議論はほ

とんど支離滅裂です。

彼は物質的でない魂のような幻想的な概念に対する保護のために物理学の法則に訴える最初のページから始まりますが、物理学は幻想的な概念(不確実性、絡み合い、波/粒子の二重性、シュレディンガーの死んだ/生きている猫など)で作られており、ファインマンが何度も言ったように「誰も物理学を理解していません!""誰も決してしないと思うし、私は「理解する」ものは何もないと言う多くの人の一人ですが、むしろ存在、空間、時間、物質などと一緒に「もの」がたくさんあります。私たちの小さな脳ができることには限界があり、多分私たちは今その限界にいます。

たとえ私たちよりもはるかに良い(ある意味で)理解できる巨大なコンピュータを作ったとしても、それが私たちに説明できることは明らかではありません。アイデアを理解するには、ある程度の知性やパワー(たとえば、一定数の事柄を念頭に置いて、一定数の計算を実行する/秒)が必要です。ほとんどの人は、どんなに長くそれをしなければならぬとしても、弦理論の乱用数学を決して把握しません。そして、弦理論(または他の任意の)が私たちの世界の数学的(すなわち、実際の)表現として理にかなっていることは明らかではありません。これは、文字列理論、心の量子論など欠けていると思う明確なCOSを必要とします。だから、私たちの超スマートコンピュータは、私たちが「私たちが行うのと同じ意味で考える方法」を教えても、私たちに本当に複雑なことを説明することができないと考える正当な理由があります。しかし、いつものように、私たちは言葉の意味(COS)を見ることができるよう正確な文脈を指定する必要があります、この種のほとんどの科学は問題の認識を持っていません。

最初のページには、脳を小さなロボットの束と比較する彼のお気に入りの引用符の1つであり、pg2では私たちは心無いロボットで作られていると言います。しかし、心を持っているエンティティのCOSは何ですか? 脳(および細胞)の働き方はロボットの働き方とまったく同じではなく、その違いを概念化する方法さえ知りません(つまり、ロボットの仕組みは分かっていますが、脳の仕組みは知りません。私が上記のように、これは30年前にサールによって指摘されましたが、デネット(そして無数の他の人)はそれを得ることはありません。

私たちはまた、科学が私たちの自由を理解し、私たちの a 道徳のためのより良い基盤を与えるだろうと最初のページで言われています。私が見る限り、科学も哲学も宗教も、私たちの自由や道徳に対する理解に影響を与える必要はありません。彼は利他主義と合理的な選択の生物学について長々と議論していますが、私たちの道徳的直感が4歳の子供たちには *built* であり、実証可能であるという認知心理学からの豊富な証拠については言及しません *It is in and demonstrable in 4 year*。代わりに、彼は選択と道徳が出来事記憶と他の人とのやり取りから来る方法を示すために多くの時間を費やしています。pg2では、私たちの価値観は細胞の「目標」とpg2から3の目標とはほとんど関係がない、と彼は言う。「これは、私たちの違いが私たちの遺伝子に大きくプログラムされ、幼児期に固定されている豊富な証拠の人間性のはげの解雇であり、彼の絶え間ない *confused* が前後にさまよっているベトウ・エーン決定論と環境主義の典型です(すなわち、私たちは経験によって道徳を発展させるという彼の見解です)。しかし、再び彼は哲学的なものや科学的な問題を混ぜて、すなわち、私たちが「ロボット」、「心」、「決定」、「自由」などで遊んでいるゲームは正確に何ですか? 本の他の多くのセクションは、同じ混乱を示しています。科学的証拠を知らない人 *scientific* は、ピンカーの「ブランクスレート」、ボイヤーの宗教説明'と100以上の最近のテキスト、および人格開発、進化と認知心理学に関する記事やウェブページの数万を読みたいかもしれません。

pg4で彼はバイソンは彼らがバイソンであることを知らないと言ひ、私たちはほんの数百年の間哺乳類であることを知っていると言います。どちらも認知心理学の根本的な理解の欠如を示しています。存在論的カテゴリーの認知テンプレートは、何億年も前に元の形で進化し、動物はカテゴリーを確立するのに十分な学習なしに、自分の種や他の種や動物や植物や物体の他の種やクラスを認識する生まれつきの能力を持っています。バイソンは、彼らが他のバイソンのようなものであることを知っていて、私たちの祖先は、彼らが他の哺乳類のようなものであり、爬虫類は異なっているが、お互いに似ていることを知っていました。認知研究は、非常に幼い子供の能力のこれらのタイプを示しています。繰り返しますが、私たちはそのシステム1の言語学的感覚またはそのシステム2言語学的な意味で「知っている」を使用していますか? 思考視点の2つのシステムの有用性については、私の他の著作を参照してください。

もちろん、ビソンと哺乳類という言葉が最近のことは事実ですが、脳の仕組みとは何の関係もありません。

5ページでは、彼は科学に対するポストモダニズムの敵意を恐ろしい思考の産物と考えているが、なぜそれが理由なのか推測していない。認知心理学と知り合いにもかかわらず、私が他の場所で議論する直感的な心理学、連合、社会的心、社会的交流などの推論エンジンの操作によって通常生み出される感情と多くの科学結果が衝突する可能性が高いとは考えていない。

9ページで彼は自由意志が問題であり、それに対する私たちの態度は違いを生むが、誰のために?哲学者以外の誰もいない。私たちは選択をします。何が問題なの?人は問題を経験するために人生の外に出なければならなくなり、すべてが問題になります。意識、痛み、黄色、意図、物質、クォーク、重力などは何ですか?私は、普通の人々が選択に対する考え方のために、人とのやり取りや意思決定プロセスに根本的な変化を経験したことがあると思います。これは、そのような質問について奇妙な何かがあることを示しています。ウィトゲンシュタインは、言語ゲームが異なっていることを示しています。dエカリシヨンのための認知テンプレートに接続された言語d、または色などを見るためのゲームがあり、哲学的思考は通常、間違っただけで、または明確な文脈なしで単語を使用しています(これは分離された呼び出しを行うことができます)。

分離されたモードは、過去について考えたり、将来を計画したり、他の人の精神状態を推測したりすることを可能にしますが、ジョンがそれを行うかもしれないと想像するのではなく、私の財布を盗もうとします。統合失調症やその他の精神疾患のいくつかの側面は、このように見られるかもしれませんが - 例えば、peopleが持っている動機と彼らが持っているかもしれない動機とmight haveの違いを見ることができないモードの制御を失います。

その後、哲学的な人々の多くは、これらの分離された(反事実的な)モード、で動作するが、通常モードとの違いを彼らの前に保つことができないのを見ることができます。通常モード(例えば、ライオンが何をしているのか)は、最初の進化したモードと分離されたモード、つまり、そのライオンが前回何をしたのか、それとも次に何をするつもりなのか、後で進化しました。これはおそらく動物にとって問題ではなかったでしょう - 何が起るかを心配してあまりにも多くの時間を費やした動物は、遺伝子プールに貢献することはあまり成功しません。

人間が文化を発達させ、遺伝的に変性し始めて初めて、多くの人々が遺伝子で生き残ることができ、多くの人々が分離モードで多くの時間を過ごすことを推測することは興味深いことです。したがって、私たちは哲学とこの本を持っていますが、主にデコネドモードで意思決定テンプレートを実行する方法ですが、他の人がエンジンを分離モードで実行するために使用するための本に結果を入れるためのロイヤリティを獲得する以外に実際の結果はありません。ウィトゲンシュタインの引用を変更して、食べるのと同じように機能する動詞や飲み物のように見える動詞が続いている限り、私がそうでなければやっておけばよかったと言う限り、人々は同じ不可解な困難につまずき続けるでしょうものを見つめて。

ほとんどの哲学書と同様に、ほぼすべてのページ、しばしばすべての段落は、あるタイプの言語ゲームから別の言語ゲームに変わり、今では冗談や夢を見たり、劇中で行動したり、物語を暗唱したりする必要があり、実際には何も意図せず、世界の実際の状況を説明する必要はありません。10ページでは、食べ物や水に関するクエントのように、私たちの生活について考える自由意志を当てにしていると言いますが、哲学の外で、食べ物でいっぱいランチカウンターの前に立っている人は、ミネラルウォーターの代わりにコーラを選ぶことができるように自由意志を持つことがどれほど素晴らしいと思ったことがありますか?私は深刻な互換性リストになり、分離モードでこれを考えてみたい場合でも、私は終了し、実際の選択を行うために非連結モードに入る必要があります。そうして初めて、私は本当の選択をする能力を持っていなかったら何が起こったのだろうかと思うために分離モードに戻ることができます。

ウィトゲンシュタインは、ゲームのふりをする方法が実際のものに寄生する方法を指摘しました(これは些細な観察ではありません!非常に複雑な分離シナリオに従事する能力は、すでに4歳の子供たちに明らかです。だから、私は通常、誰も選択を当てにしていないが、むしろ我々は単に選択すると言うだろう。ウィトゲンシュタインが明らかにしたように、それは私たちの人生の基盤である確実性に基づく行動です。ダニエレ・モヤアル=シャーロックの最近の著作と私の他の著作を参照してください。

同じページで、彼は認知の基礎を把握していないことを再び示しています。彼は、私たちが選択の概念的な雰囲気の中で私たちの生活を行うことを学ぶと言います、そして、それは算術のように永遠で変わらない安定した歴史的な構造であるように見えますが、それはそうではありません。認知心理学(およびウィトゲンシュタイン)の全体の推力は、我々は計画、決定、有望、恨みなどの基本を学ばないが、これらは自動的かつ無意識的に動作し、非常に幼児期に実行を開始する推論エンジンの組み込み機能であるということです。

pg 14で、彼は私たちが自由を持つことは、私たちがそれを持っていると信じることに依存する可能性が高いことを示唆しています!リングを見て、痛みを感じ、幸せだと信じていますか?信念の言語ゲームは、言葉で知ることとは非常に異なっています(明確なCOS) デネットがしばしばそれらを使用する方法で支離滅裂です(明確なCOSなし).私たちはポケットに1ドルを持っていると信じることはできますが、それを取り出して見れば、私たちはまだそれを信じて

いると言うことはできません(冗談などを除く)。推論エンジンは分離された(信念)モードで実行できるため、選択をしたり作ったりすることを想像できますが、人生ではそれらを作るだけで、非常に奇妙な状況でのみ選択をしたと言えます。しかし、デネットはこれが普遍的なケースであると言っています。選択を行うことは、意識、見ること、思考など、他のすべてよりも信念に依存していた場合。私たちがこれを真剣に受け止めるならば(そして彼が自由意志の深刻な問題を言う)、私たちはトラブルに巻き込まれつつ、実際にそれを人生に適用しようとすると、狂気は数分先です。彼は、最近まですべての哲学者と同様に、ヴィトゲンシュタインが彼の最後の作品「確実性について」で考えているシステム1の無丸の「ヒンジ」またはオートマチズムを知ることの実際の根拠を記述することによって、信念に基づいて私たちの行動を根拠とする方法を私たちに示したという手がかりを持っていませんでした。ダニエレ・モヤル=シャーロックは過去10年間にこれを説明し、私は彼女の作品を要約し、私のレビューや記事にそれを組み込みました。

65ページで、彼は因果関係、意図、そして原子などを記述するために使用する「非公式の述語」について議論しています。しかし、認知研究では、直感的な物理モジュールで分析する限られた数の占論的カテゴリーですべての「オブジェクト」を記述し、エージェント(動物や人、幽霊や神々など)が関与すると、私たちは代理店、直感的心理学、社会的心などのために私たちの概念(エンジン)を使用しています。因果関係モジュールはほぼ確実にありませんが、正確な状況に応じて、これらおよび他の推論エンジンのすべてを含みます。直感的な物理学、代理店、トポロジーカテゴリーなどのためにモジュールの出力の観点から話せば、可能性と必要性について話し合うことは非常に簡単です。もちろん、意図と社会的現実に関するサールの古典的な作品の因果関係、意図、決定、またはサールの古典的な作品の言語ゲームに関するヴィトゲンシュタインの多くの切迫したコメントについては、ここでは言及していません。

彼は、アインズリーの著書「ウィルの内訳」に多くの時間を費やし、双曲線割引学部(すなわち、推論エンジン)について議論され、結果の可能性を評価します。

彼は利他主義、感情、経済学に関するロバート・フランクの優れた作品の多くを作っていますが、彼が引用する本は、この本が出版されたとき15歳でした。フランクとポイドとリチャードソン(1992)によって増幅されたビンガムの考えは、詐欺師を罰するための手段の進化によって協力が大きく刺激されたのです。彼は、義務的で有望なダーウィニアンアプローチの例としてこれらを示唆しています。実際、それらは、実際には、経済、進化、認知理論の標準的な部分であるが、残念ながら、彼はこれらの分野の他の研究にはほとんど言及していません。すべての作業は、人々が選択しないことを示す傾向がありますが、彼らの脳は彼らのために選択します(システム1高速自動'選択肢'対システム2の遅い審議'選択肢')。彼は、この作品と選択の一般的な問題との間に説得力のあるつながりを確立しておらず、ほぼすべての哲学者が思考枠組みの強力な2つのシステムを把握していません。

すべてのストライプの哲学者は、推論エンジンを切り離して「もしゲームをする」能力、トポロジーカテゴリーに直感的なタグを付けることを愛する能力によって催眠術を受けています(ソクラテスが不滅であった場合など)。この点で、彼らは原始的な宗教といくつかの要素を共有しています(ポイヤー参照)。これは冗談でも侮辱でもありませんが、現代の認知概念を把握すると、人間の活動の全スペクトルを適用することを見えています(そうでなければ奇妙です)。しかし、ヴィトゲンシュタインがとても美しく説明したように、S2の言語ゲームと推論エンジンには限界があります-説明は終わりを迎えます-私たちは岩盤(S1)を打ちました。しかし、哲学者は、彼がそれを超えて見ることができると考え、水の上を歩くか、ヴィトゲンシュタインがそれを置くように、絶対的な暗闇の中に出て行きます。

pg 216では、自分がそうでなければできなかったように自分自身を作ることは、自由意志への進化的上昇の重要な革新であり、機会に無神経な自分をレンダリングする方法を学ぶ場合にのみ自由に行うことができると彼は言います。繰り返しますが、人は何かを意味することはできません(状態クリアCOS)、そしてデネットはCOSを明確にすることさえ始めません。そして、これらの「能力」がどのように機能するのか(すなわち、「意志」、「自己」、「選択」、「原因」などのゲーム)決して明らかにされていない。デネットは、かなり無関係なテキストの膨大な量で彼のアイデアを隠すためのペンチャントを持っています(すなわち、彼は真の哲学者です!)

繰り返しますが、私たちは推論エンジンから何らかの方法で振る舞うべきという感情を得るという生物学と心理学から非常に良い証拠の広大な体があるので、彼は物事を後ろ向きに取得し、これらは私たちの意識的な自己の一部ではなく、エンジンの自動および無意識の操作によって提供されます。彼が指摘するように、囚人のジレンマと関連するプロトコルを使った何百もの実験は、人々の選択を操作することがいかに簡単であるか、そして彼らの計算が全く意識的で意図的ではないことを示しており、実際には現代の心理学的、社会学的、そしてヌール・オ・エコノミクス研究の多くは、S1の自動化とS1ルールの審議的思考を区別することに専念しています。

人々を意識させるために状況が操作されると、彼らははるかに遅く、信頼性が低いです(S2)。だから、エンジンを速く、自動にし、意図的な思考にアクセスできないようにするために、自然選択の絶え間ない圧力がありません。

デ・ネットは、そうでなければ行うことができなかつたので、これが道徳と選択の基礎になるように「私たちは自分自身を作る」と言います。証拠はis正反対です。私たちの推論エンジンは、私たちに基本的な道徳的直感を与え、我々は一般的に結果と一致して行動します。私たちや他の人がそうでなければ、私たちは罪悪感、怒り、恨みなどを感じ、詐欺師の遺伝子が集団に侵入し、これは道徳の良い部分がどのように進化したかに関する主要な理論の一つです。私たちの遺伝子は私たちを作るので、私たちの意志やデネットがそれを行うことができるとは思いません。私たちはしばしばそうすることを選ぶことができますが、私たち自身の直感と社会的承認の知識は、通常、私たちの選択を制限するのに役立ちます。これらの直感、50,000年から数百万年前の間に小さなグループで進化した。現代の世界では、直感、しばしば私たちのロング学期の優位性と社会的統制の弱さではありません。これは、世界の混乱に絶え間ない進歩の主な理由です。

pg 225で、彼は最終的に意思決定のように見える機械主義的な原因の複雑なうなり声として自由意志の定義に潜入します(特定の角度から)。彼は、これが自由意志のすべての貴重な役割を果たしていることを主張するが、伝統的な自由意志によって所有されているいくつかの(不特定の)特性を欠いている。煙は濃いですが、私はそれらの不特定の特性の1つが私たちが選択として理解しているものであると確信しています。彼は(pg 226のトップ)意思決定の彼の自然主義的な説明は道徳的責任のための十分な余地を残すと主張するが、そうでなければ私たちができないように自分自身を作ることは、私たちが実際に機能する方法を記述するものではなく、道徳の余地も残さないable to。

彼は選択が自発的または強制的であるかどうかを決定するためのテストを提案していないし、私は彼がそうすることができる疑いがあります。通常、誰かが私たちに私たちの手を動かすように頼んだ場合、私たちは選択肢を持っているとカウントされるものを知っていますが、哲学者の典型的な、私はそれが動くかどうかに関係なく、彼が彼の立場の証拠として両方を数えることを期待しています。

この時点で、彼はまた、私が私の時間の価値があると感じた本の唯一の部分である意識的な注意に関するLibetのよく知られた作品についての彼の議論を開始します。しかし、私たちが意識せずに決定を下すというLibetの主張は、心理学者と哲学者(例えば、サールとキールストローム)の両方によって何度も否定されています。

253ページの彼は、意識的意志の定義に潜入し、その主な役割の1つとして自分自身の脳のユーザーの錯覚は、他の時に自分自身とインターフェースする手段を提供します。そして、'Illusoryかどうか、意識的意志は、行動に対する自分の道徳的責任への人のガイドです。「th私たちが必要とするトリックは、"I"が「単純化障壁」の中で何が起きているのかを制御することだ、と彼は言う。は私たちが"であるものです。重要なことは、自己が宇宙(脳)と時間(記憶)に分散されているため、選択が可能であるということです。彼はこれが多くの信じられないほど(これに従い、本当に奇妙な言語ゲームを理解できるすべての人)を残すつもりであることを認識しています!私は多くの人々がこの考えを把握したり、真剣に取り組むのが難しいことを知っています。彼らは鏡を持ったトリックのように思えますが、意識を吹き飛ばす何らかの言葉の手と、それが導入されようとしたときの本当の自己は、彼が口から言葉を取り出したと言うでしょうが、私はそれが支離滅裂であり、意識と宇宙全体について知っていることはすべて(そのような主張の明白な延長を作る)と言うでしょう。そして、言語ゲームを注意深く見ると、彼らの一貫性の欠如が示されています(つまり、私の記事で述べている明確な満足の条件はありません)。

ほとんどのフィル・オ・ソファーや哲学的なワックスを持つほぼすべての科学者と同様に、彼は最初の文章で致命的な間違いを犯します - 明確な(すなわち、意味のある)方法で言語を使用しなかつたこと、そして後に続くすべてはカードの家です。

ヴィトゲンシュタインは、彼のいつもの格言の輝きで問題を述べたので、私は再びそれを繰り返します。

「精神過程や状態、行動主義に関する哲学的問題は、どのように起こるのでしょうか。- 最初のステップは、完全に通知をエスケープするものです。私たちは、プロセスや状態について話し、その性質を未定のままにします。いつか私たちは彼らについてもっと知るだろうと思う。しかし、それは問題を見る特定の方法に私たちをコミットするものです。プロセスをよりよく知ることを学ぶことの意味の明確な概念があります。(コンジュリグトリックの決定的な動きがなされ、それは私たちが非常に無実だと思ったまさにそのものでした)。-そして今、私たちの考えを理解させるといふとえはばらばらは落ちる。だから、我々はまだ未踏の媒体でまだ理解されていないプロセスを否定する必要があります。そして今、私たちは精神的なプロセスを否定したかのように見えます。そして、当然のことながら、私たちはそれらを否定したくありません。 W PI p308

pg 259で、彼は文化が私たちに合理的な動物を作ったと言います!これは、ダーウィンの危険なアイデアを書いた人から来る人間(および動物)の性質(すなわち、遺伝学と進化)の驚くべき否定です!

おそらく、彼は宇宙(脳や他の人々)と時間(ドーキンスのミームと同じように)に広がる記憶が私たちに選択肢と道徳と意識を与えてくれるという彼の考えについて話しています(下から6行目)。彼は、意識はユーザーインターフェイスであると言いますが、ユーザーが誰であるか、どこにいるのか、そしてそれが脳とどのようにインターフェースしているかは決して明らかではありません(そこにも答えがないことを見つけるためには、意識を説明して苦しむ必要があります)。彼は進化と認知心理学に多くの言及をしていますが、何十年も前から存在している用語(社会的な心、直感的な心理学、連立直感など)を使用することはめったになく、明らかに概念のほとんどに精通していません。彼は私たちが文化から道徳の細かい詳細を得たことを意味するならば、それは大丈夫ですが、これはケーキのS2アイシングであり、S1ケーキは遺伝子によって焼かれました。

また、R&D(彼はここで進化を意味しますが、他の場所では他のもの)が私たちに自己を与え、言語は新しい種類の意識と道徳を生み出すと言われています。私は彼がこれについてほとんど合意を得られないと確信しています。意識と道徳の基礎は、話し言葉のずっと前に霊長類(および以前)に進化したことは明らかです(しかし、言語が脳内の現存する能力からどのように進化したかについては非常に不満です)。彼はケーキのアイシングを意味するならば大丈夫だろう「道徳ミームは数万年前に偶然に生まれた」を続けますが、彼は明らかにケーキを意味します!そして、道徳のポイントは、たとえ彼がミームを指していただけても、言うのは驚くべき(そして全く間違っ)たことである私たちの遺伝子の生存ではないと言っています。

pg 260では、私たちは協力する私たちの「当たり障りのない性質」を理解していないので、彼らは私たちにとって何の意味もないと主張していますが、それは私たちにとって、そしてすべての動物のすべての行動にすべてである私たちのテンプレート(すなわち、相互利他性mが包括的なフィットネスを促進する)の操作です。ドーキンスが最近、「グループ選択」のファンタズムを支持するE.Oウィルソンの悲惨な最近の作品に関する彼のコメントで指摘したように、自然選択は包括的なフィットネスです(ウィルソンの「地球の社会的征服」の私のレビューを参照)。私たちの多くの「テンプレート」の1つが損傷した場合、人は社会的存在(例えば、自閉症、社会病、統合失調症)として適切に機能することができないという十分な証拠があります。直感的な心理学などのテンプレートの運用は、意識や選択が無い直感的な見解に哲学する際に人々を導くものです。

彼はまた、私たちが私たちの見解を変え、それらの理由を振り返ることができたとき、それは大きな進化の転換の一つだったとここで言います。これは再び進化心理学に対する彼の理解の欠如を反映している。私は、すべてのテンプレートのような基本的な道徳的直感が意識にアクセス可能であるという証拠を知りませんが、反対を示す巨大な作品があります。私たちは不正行為が正当であると判断したり、他の誰かの不正行為を許したりすることがありますが、それでも不正行為だったことを知っています(つまり、エンジンを変更することはできません)。100年前の先祖は同じ状況で同じ気持ちを持っていたと思いますが、今、関連性のあるものとして取られるかもしれない他の多くのことが起こったので、時には私は私の気持ちに反して行動するでしょう。もう一つの問題は、文化が発展するにつれて、エンジンが明確な答えを与えるために進化しなかった多くの重要な、または道徳的なタイプの決定をしなければならなかったということです。

pg 267では、私たちは今、私たちの「自由な浮遊合理性」(おそらく認知心理学者が私たちのテンプレートや推論エンジンと呼ぶものに対応する)を反射と相互説得に置き換えていると言います。そしてpg 286では、道徳的推論に影響を与えるのは、子供の生い立ちであり、厳しく、理由を与えるのだと彼は言う。繰り返しますが、彼は過去30年間の研究で何が起こったのかを把握していません - テンプレートは生まれつきのS1オートマチズムであり、反省や生い立ちで変えることはできません。その後、私たちは、意識が責任を取る自己に時間の経過とともに道徳的な問題を利用できるようにすると再び言われます。それは繰り返してこれ以上一貫性や信用できません。

pg 289では、彼はそれが反映することを可能にする文化であり、その選択は教育(記憶)と共有に依存するという誤った概念を繰り返す章の要約を持っています。それは文化ではなく、反映し、選択することを可能にする継承された認知構造であり、その文化が受け入れ可能な行動とその報酬または罰を決定することは明らかです。pg. 303では、私たちのテンプレートがずっと前にその問題を解決したことを知らずに、つまり他の人々に関する状況についてどのように感じるかを教えてくれるので、彼は'ought'と'is'の間の古典的な哲学的障壁について議論します。彼はまた、私たちの遺伝子に何百もの「文化的」普遍的な普遍的な移植(例えば、ピンカーの「ブランクスレート」を参照)とサールの古典的な論文「Isから求めるべきを導き出す方法」があることに気づいていないようです。

彼はしばしば進化心理学のいくつかの問題について良い議論になりそうなものから始まりますが、常に哲学的なアルカナに迷い込み、より混乱に巻き込まれます。これはpg. 261で起こり、彼は「賞賛に値する」のような概念は何千年もの間文化によって形作られたと述べていますが、ほとんどの人はそのような概念の基礎は遺伝子にあり、各文化はメンバーが生来のメカニズムから得る直感に対する受け入れ可能な反応の詳細を決定するだけです。pg 262では、ESS(進化的に安定した戦略)が道徳を生み出す方法を説明しようとしています。ここでの彼の考え方は、遺伝的な「R&D」(すなわち、進化)は道徳の薄暗い理解を生み出し、その後、文化(メメティクス)は、バリエーションと明確化を生成するという事です。私たちは皆、推論エンジンから非常に明確な結果を得て、特別なケースでのみ薄暗く理解していることを、私たちは皆知っていると言うでしょう。文化は、私たちが自分の気持ちについて何ができるかを決めるだけです。

本の最後の部分は、主に道徳的な耕作性に関係しています。彼は、その著者がヴィトゲンシュタインの影響を深く受け入れていたので、私が30年前に読み始めたハートとホノレの法的古典を指します。デネットは、私たちは自分自身の道徳をコントロールし、道徳について考えることは私たちを改善すると言います。しかし、この本にはこの見解に対する正当な理由はないようです。誰もが猿の心の指示から逃れるのを助けるためにここには何もありませんし、私は22世紀に産業文明が崩壊したとき、人々が彼らの祖先が20万年前のように行動することを確信しています。哲学とは無関係の霊的な道を旅することによって逃げ出すことになる人は、多くの神秘主義者が心の機能について魅力的なことを言うことを持っていることを考えると、この本全体にスピリチュアリティのヒントがないことを考えると、防御可能な視点です。私は、哲学のどこよりも、Oshoの200冊の本やテープの中で自由で道徳になる方法についての知恵を見つけます。

当然のことながら、大学で教える精神的、道徳的に高度な人々を見つけることはめったにありません。ここには、デネットが道徳的に優れているという兆候も、彼が何をしたのでもない。道徳について考えて40年後、彼は彼の批評家に個人的な攻撃を開始するか、傲慢にそれらを却下します。私たち全員と同じように、彼は推論エンジンの限界に閉じ込められていることは明らかです。

では、道徳を改善する機会はいくらあるのでしょうか。私たちの行動のほとんどは遺伝的であり、残りは親や宗教、政党の精力的な努力にもかかわらず、私たちの環境の未知の要因のために遺伝的であることは明らかです(例えば、ピンカーの「ブランクスレート」を参照してください)。平均して、道徳的行動の変動の5%(バリエーションは私たちが勉強できる唯一のものは、私たち自身の努力(文化)によるものです。今日最も重要な道徳的選択は、世界の運命に影響を与えるものです。しかし、私たちのテンプレートは、人口過剰(殺人を除く)と気候変動(他の場所に移動し、反対を殺すことを除く)に対処するために進化しませんでした。

世界の何億人もの教育を受けた人々の一人が、意識や選択、または精神的現象が本当に何であるかを理解できたら、それがどれほど驚くべきことでしょうか(すなわち、その神経生理学的相関を記述する方法)。もしそうなら、私たちは、彼らがいくつかのエキゾチックなfMRI機器と最新の並列処理ニューラルネットワークファジィロジックコンピュータなどを使用して研究の最先端の科学者になることを期待します。そして、それは彼らが神経回路と生化学/遺伝学を指定することを意味するだけです。だから、彼らはe question哲学の質問s(高次思考の記述心理学の言語ゲーム)に答えることはできません。しかし、それは答えを必要としません - 空間、時間、物質の存在のように、それは物事の状態であり、哲学者の仕事は、私たちがこれらの言葉で遊べることのできる言語ゲームを明確にすることです。しかし、哲学者や物理学者はただそこに座って考えて、a scientificそこにある最大の科学的なパズルに科学的な解決策を思い付く!そして、最初に懐疑論者に確認することなく、それについての全体の本を書きます。最初に引用に戻ることは、思考の死です。確かに-しかし、明らかにヴィトゲンシュタインは深遠な思考を考えていました!